

2015.12.21

大雪山における協働型登山道管理に関する意識調査結果報告

北大農学研究院 愛甲哲也
同農学部 齋藤天道

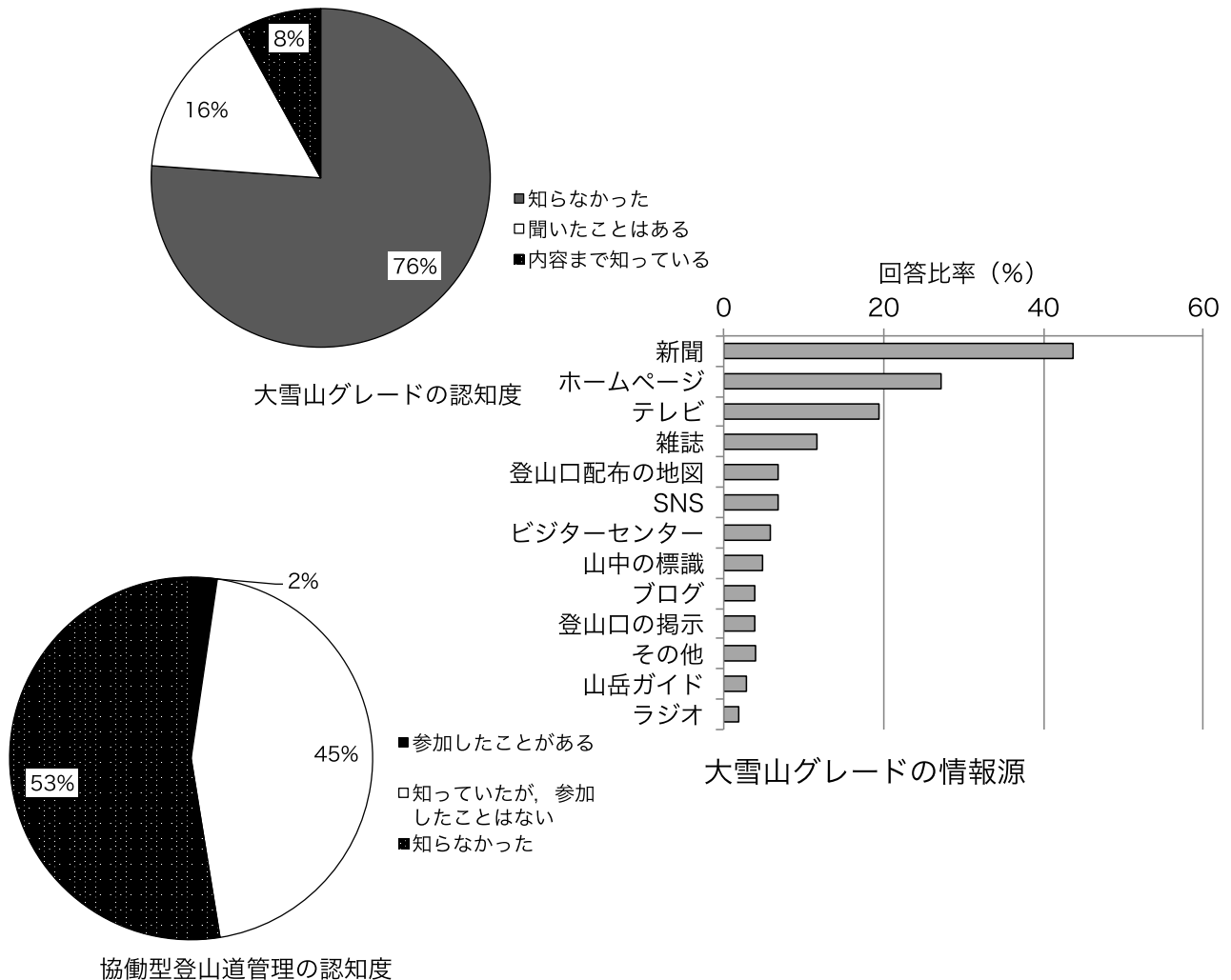
1. 方法

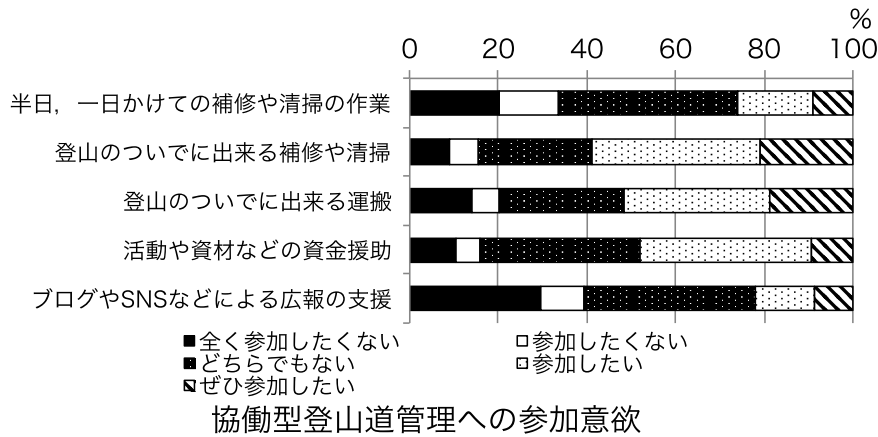
登山道管理に一般登山者の協力を得ることの基礎資料として、2015年夏の登山者に意識調査を行い、大雪山グレードや協働型登山道管理の認知度、今後の参加意欲などを質問した。

7月末から9月末にかけて、黒岳（山頂、石室、五合目）、姿見駅、赤岳で計805通を配布し、10月末までに442通を郵送で回収（回収率54.9%）、有効回答数は437通であった（有効回答率54.3%）。

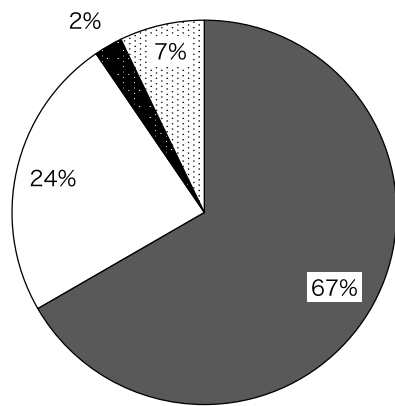
また、上川中部森林管理署大函森林官事務所の協力を得て、黒岳での7月の荷揚げに協力した登山者42名から、意識調査の回答を得た。

2. 一般登山者の認知度と参加意欲

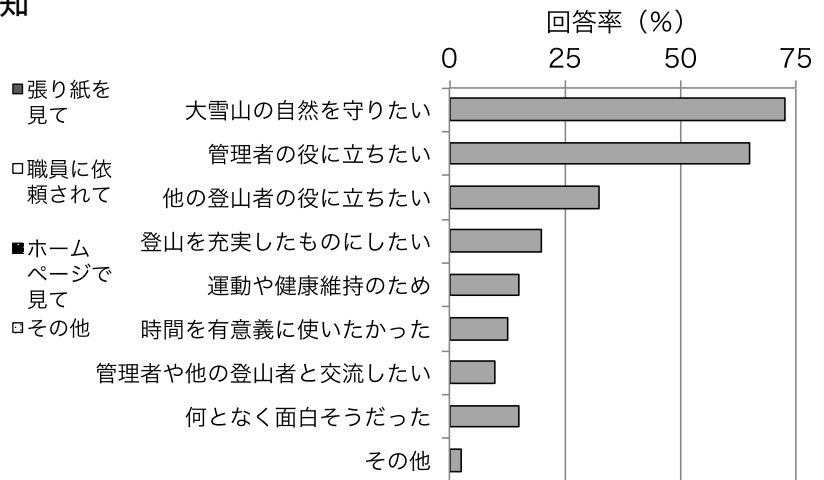




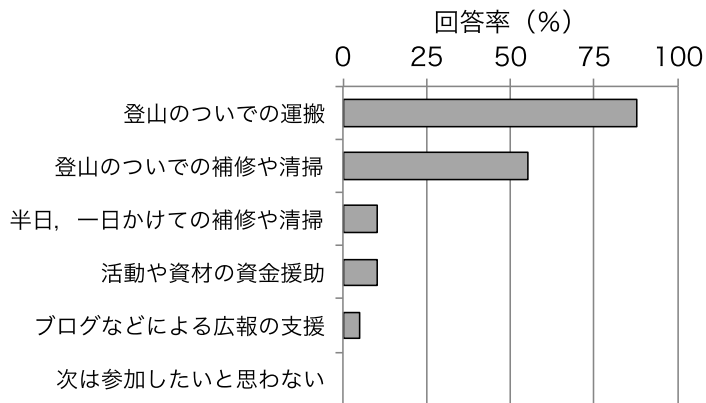
3. 黒岳荷揚げ参加者の認知



荷揚げに協力したきっかけ
度と参加意欲



荷揚げに協力した理由



荷揚げ協力者の参加意欲

4. 終わりに

大雪山グレードや協働型登山道管理の認知度はまだ低いですが、関心や参加意欲は高い。登山のついでに可能な補修・清掃や荷揚げが望まれていた。荷揚げ協力者の多くが、大雪山の自然を守るためという理由で、今後の参加意欲も高い。

さらに、協働型登山道管理の関係者を対象にした意識調査を予定しているので、皆様のご協力をお願いしたい。